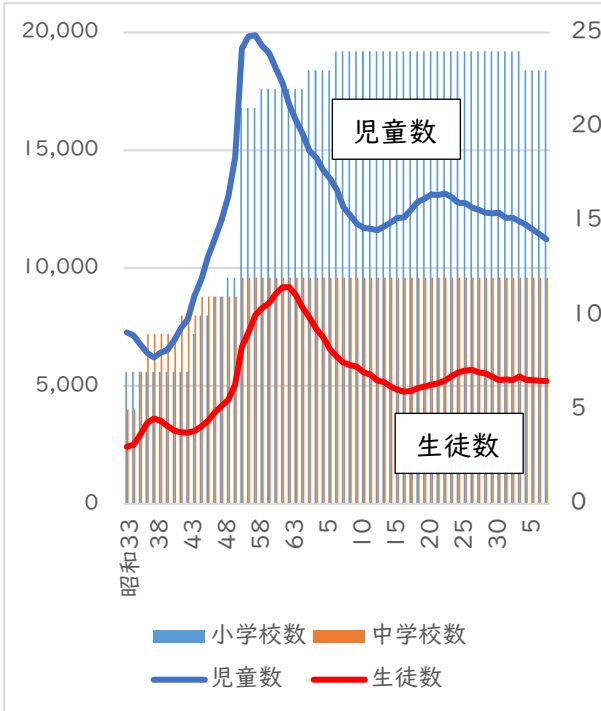


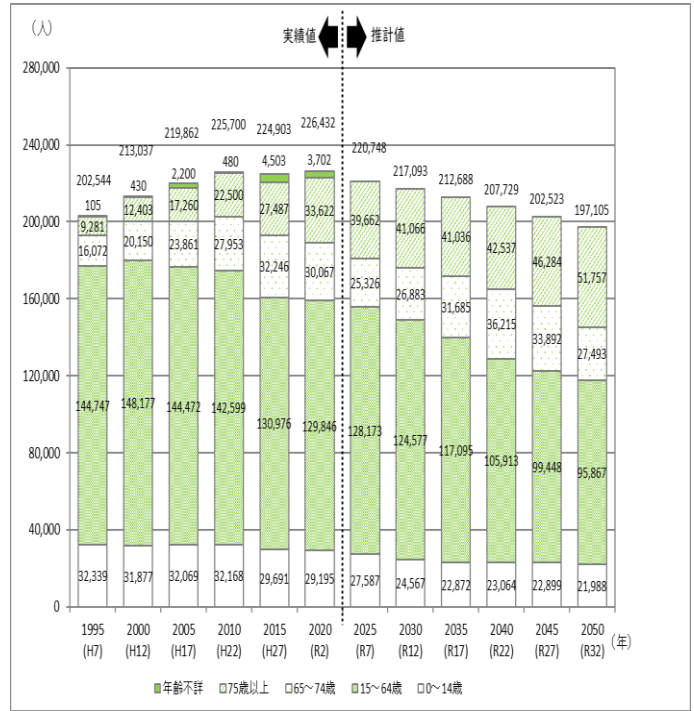
光明・末成地域における学校規模の適正化について

宝塚市教育委員会

1 市立小・中学校における児童生徒数及び学校数の推移、年齢区分別人口構成比の推移



※各年5月1日時点



資料: 国勢調査、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」(令和5年(2023年)12月推計)

2 本市の課題

(1) 少子高齢化の進展

若年層と高齢層の人口割合が2040年頃には1:1に → 公共施設の維持管理

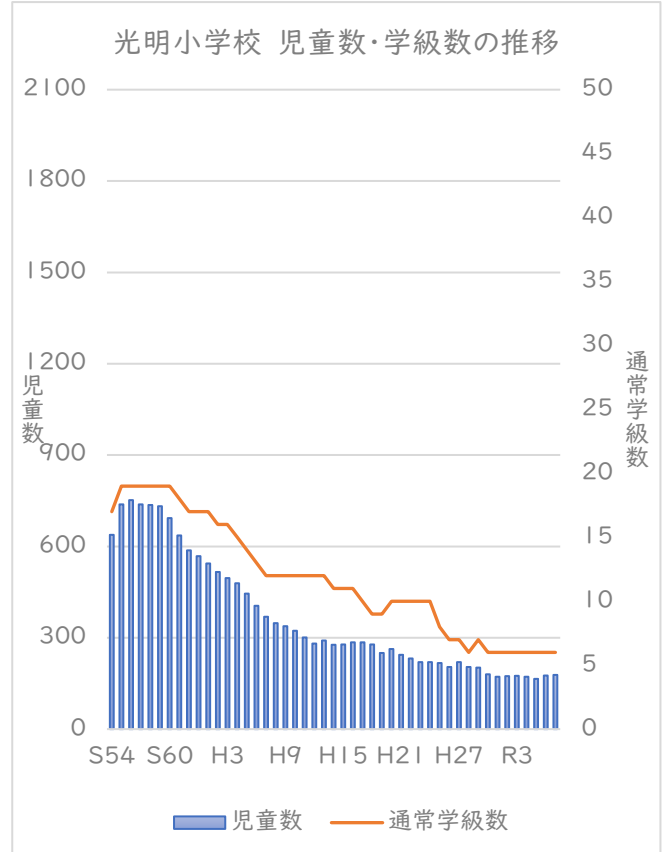
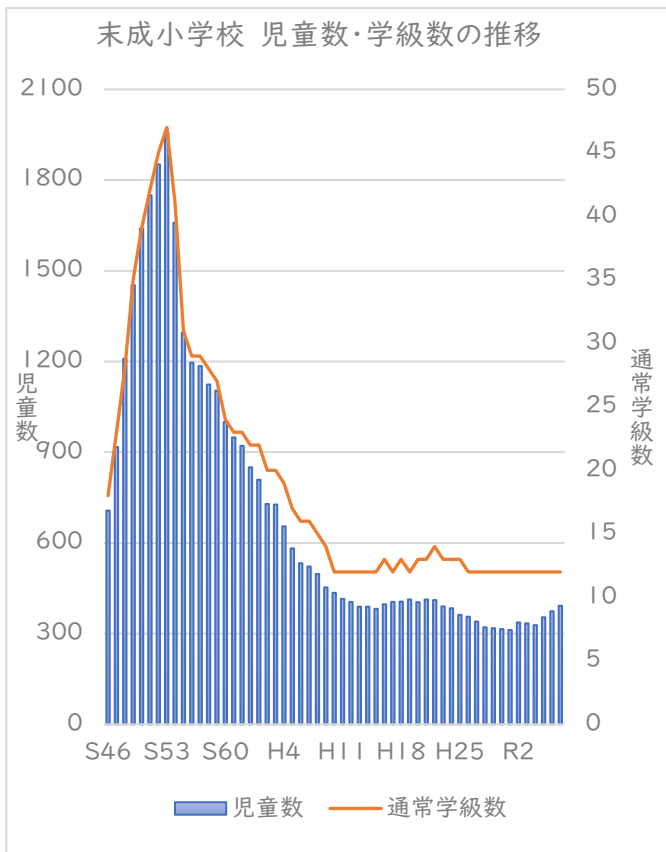
(2) 学校教育における課題

- ① 児童生徒数減少(少子化)による学校の維持管理
- ② 教育制度の見直し(平成28年(2016年)義務教育学校制度の創設)

(3) 待機児童への対応

放課後児童クラブに入所できない家庭が増加

3 末成小学校及び光明小学校の児童生徒数及び学級数の推移



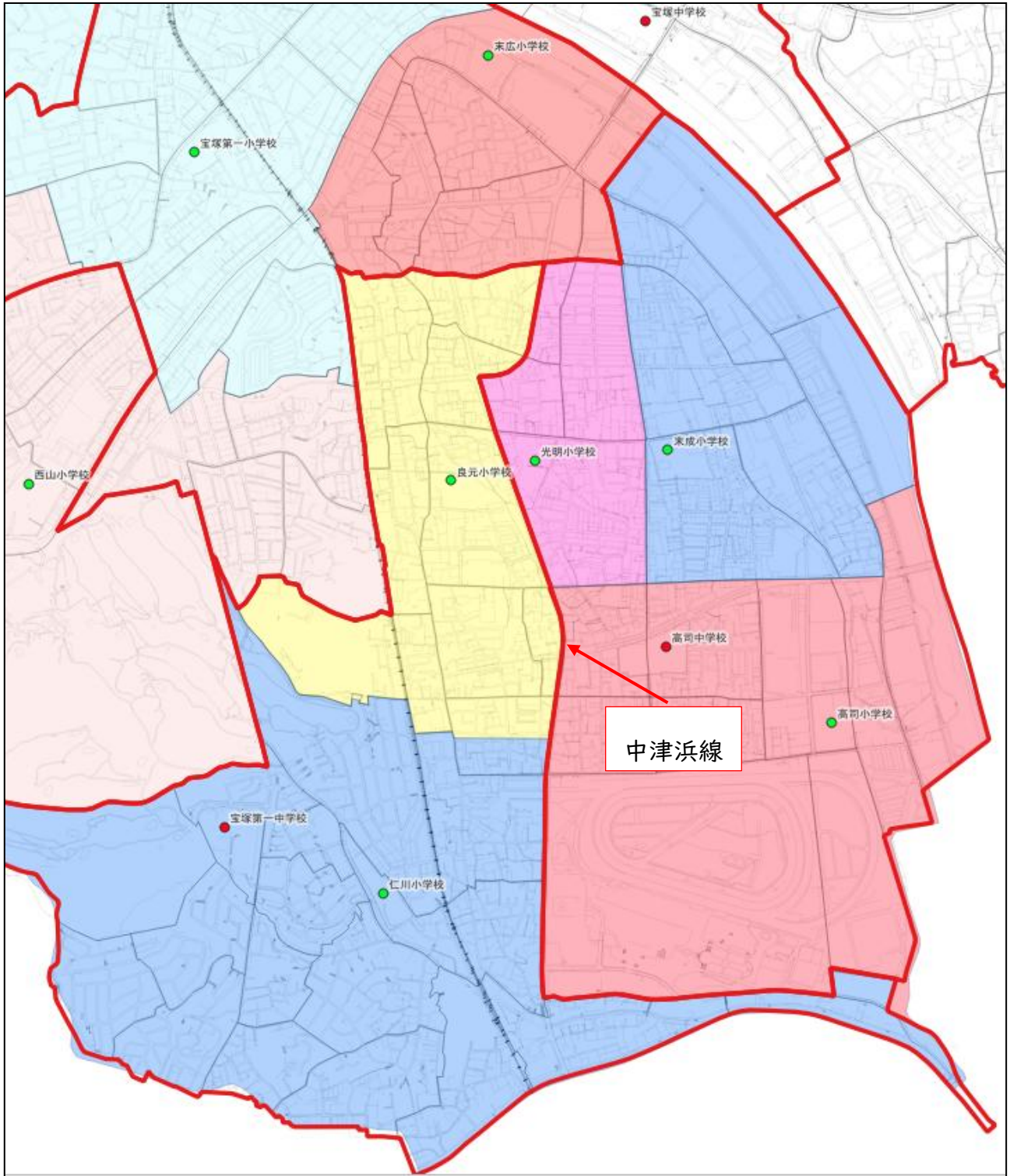
4 小規模校における学校教育の課題

- ① クラス替えができないため、人間関係が固定化しやすい。
- ② 同じ環境で6年間過ごすことになるため、多様な意見に触れる機会が少なく、競争意識が育ちにくい。
- ③ 中学校進学時に生徒数の数に圧倒されるほか、新しい人間関係づくりに不安を感じやすい。
- ④ 中学校進学時に他校から進学してくる生徒の数が多く、グループができていて入りにくい。
- ⑤ 小学校から中学校からの環境変化による子ども自身のストレス増加につながる。

5 令和8年度の取組(案)について

- ① 地域や保護者への説明(適宜実施)
- ② まちづくり協議会やPTA等の団体ごとに両校合同での検討の場の設置
- ③ 両校合同でのどのような学校づくりを進めていくのかについての検討の場の設置
- ④ 教育委員会内で必要な対応の整理(スクールカウンセラーの配置、光明小学校・末成小学校児童の交流授業の実施、光明小学校保護者の末成小学校への見学等)
- ⑤ 末成小学校での普通教室の増設を図るため、学校の長期休業中にオープンスペースの工事を実施

(参考1) 武庫川右岸側の学校の立地状況



【備考】

小学校区：色塗り部分、中学校区：赤線

(参考2) 右岸側の市立小・中学校の児童生徒数・学級数の状況について(令和7年5月1日時点)

(1) 児童生徒数

単位:人

学校名		良元小	仁川小	未成小	光明小	高司小	宝塚第一中	高司中
1年	通常学級	56	97	59	22	38	139	92
	特別支援学級	4	6	5	3	2	2	12
	小計	60	103	64	25	40	141	104
2年	通常学級	51	90	66	33	47	143	100
	特別支援学級	2	2	9	4	6	3	13
	小計	53	92	75	37	53	146	113
3年	通常学級	49	103	65	26	36	155	100
	特別支援学級	5	3	9	2	10	4	13
	小計	54	106	74	28	46	159	113
4年	通常学級	64	108	40	22	42		
	特別支援学級	5	5	7	5	3		
	小計	69	113	47	27	45		
5年	通常学級	50	97	56	29	38		
	特別支援学級	3	4	7	4	6		
	小計	53	101	63	33	44		
6年	通常学級	48	100	65	25	42		
	特別支援学級	4	6	4	3	7		
	小計	52	106	69	28	49		
合計	通常学級	318	595	351	157	243	437	292
	特別支援学級	23	26	41	21	34	9	38
	合計	341	621	392	178	277	446	330

(2) 学級数

単位:学級

学校名		良元小	仁川小	未成小	光明小	高司小	宝塚第一中	高司中
通常学級	1年	2	3	2	1	2	4	3
	2年	2	3	2	1	2	4	4
	3年	2	3	2	1	2	4	3
	4年	2	4	2	1	2		
	5年	2	3	2	1	2		
	6年	2	3	2	1	2		
	合計	12	19	12	6	12	12	10
特別支援学級		5	5	6	3	6	2	6